

HPDU National Competition



第14回 日本高校生 パラメンタリーディベート 連盟杯 全国大会

2025年3月21日(金)～23日(日)
会場:国立オリンピック記念青少年総合センター



主催: 一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟(HPDU of Japan)
後援: 文部科学省 (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)
ブリティッシュ・カウンシル (British Council)
カナダ大使館 (Embassy of Canada to Japan)
有限責任 あずさ監査法人 (KPMG AZSA LLC)
一般社団法人 日本英語交流連盟 (The English-Speaking Union of Japan)
協賛: 公益財団法人 日本英語検定協会 (Eiken Foundation of Japan)
iaeグローバルジャパン株式会社 (iae GLOBAL JAPAN, Inc.)
株式会社トモノカイ (Tomonokai Co., Ltd.)
メディアパートナー: 読売新聞社 (THE YOMIURI SHIMBUN)
協力: 株式会社アルク (ALC PRESS INC.)
エイムネクスト株式会社 (AIMNEXT Inc.)
公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 (Japan Philharmonic Orchestra)

CONTENTS:

関係団体	1
ご挨拶	2
大会役員名簿	5
大会概要	7
各教育奨励賞	8
大会参加にあたっての注意事項	10
出場校	11
大会日程・施設案内	13
試合会場・平面図	15
試合形式	16
大会ルール	17
決勝トーナメント表 (Main)	20
決勝トーナメント表 (Tournament 2)	23
過去の大会の記録	24
第 14 回 HPDU 新緑杯・第 6 回新芽杯 実施要項	28
SOLA Cup 2025 の実施について	29
第 15 回 HPDU 連盟杯 (2026) 参加の手順	30
HPDU 杯都道府県大会 推奨論題リスト	32
模擬 G7 Summit 2025 実施について	33
大会要項	34

協賛・協力団体掲載ページ

一般社団法人 日本英語交流連盟	6
公益財団法人 日本英語検定協会	9
iae グローバルジャパン株式会社	19
株式会社 トモノカイ	21, 22

◆ 関係団体 - Organizers & Supporting Organizations -

主催 : 一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟 (HPDU of Japan)

後援 : 文部科学省 (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)

ブリティッシュ・カウンシル (British Council)

カナダ大使館 (Embassy of Canada to Japan)

有限責任 あずさ監査法人 (KPMG AZSA LLC)

一般社団法人 日本英語交流連盟 (The English-Speaking Union of Japan)

協賛 : 公益財団法人 日本英語検定協会 (Eiken Foundation of Japan)

iae グローバルジャパン株式会社 (iae GLOBAL Japan, Inc)

株式会社トモノカイ (Tomonokai Co.,Ltd.)

メディアパートナー : 読売新聞社 (THE YOMIURI SHIMBUN)

協力 : 株式会社アルク (ALC PRESS INC.)

エイムネクスト株式会社 (AIMNEXT Inc)

公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 (Japan Philharmonic Orchestra)



Message from

Ryuji KITAHARA / 北原隆志

Chief Director of High School Parliamentary Debate Union of Japan
一般社団法人日本高校生パーラメンタリーディベート連盟 理事長

Welcome to the 14th HPDU Competition, the most prestigious national parliamentary debate championship for high school students.

Parliamentary debate is often referred to as "impromptu debate" in Japan. This is because it requires the skill to begin a speech just 20 minutes after the motion is announced. While this term does highlight a skill that is often lacking in Japan's English education, which is beneficial in its own way, we must not forget the original reason why this game was named "parliamentary debate."

Parliamentary debate was created by a group of 25 students at the University of Oxford who aspired to become future Members of Parliament, including prime ministers supported by the public. The purpose of this game is to develop the ability to deliver speeches that capture the public's attention, make them understand, convince them, and ultimately win their support. In short, it is about delivering speeches that are engaging and highly persuasive.

To captivate an audience, one must be creative in their delivery. To persuade an audience, arguments must be presented in a clear and logical manner, supported by numerous examples and illustrations as evidence. In past HPDU tournaments, there were students who delivered unforgettable speeches—ones that were still talked about years later as truly remarkable moments. In this year's tournament, I look forward to hearing speeches that once again seize the hearts of the audience. Good luck.



Message from

SUZUKI Yoich / 鈴木庸一

Chairman, The English-Speaking Union of Japan

Former Japanese Ambassador to France

Visiting Professor Chubu University

一般社団法人日本英語交流連盟 会長

元駐フランス大使、中部大学客員教授

On behalf of the ESUJ, I would like to extend my best wishes and congratulations to the HPDU and all the participants of the 14th HPDU Competition. The ESUJ has been working closely with the HPDU for many years to promote the art of Parliamentary Debate in Japan.

A sound parliamentary debate is an indispensable tool to retain the trust of people for a democratic system. “Democracy is the worst form of government, except for all the others that have been tried” as Winston Churchill famously said. In today’s world however, democracy is facing grave challenges as you must have all observed. In North America, in Europe and in many other places the societies are more deeply divided than before, people’s engagement to uphold a solid democratic system is weakening, and authoritarian tendencies are rising.

So, it is more important than ever that you who believe in the value of parliamentary debate such as respect for the opinion of others and the assertion of one’s views through fact based logical thinking, demonstrate its merits. I am sure that the skill you will acquire through your activities will help you contribute to keeping our society healthy in the future.

The ESUJ will continue to support the HPDU in its various activities related to parliamentary debate. You will be able to see what we do from the information provided on our page in this leaflet. We will be happy if you can join them. Once again, I wish all the participants to the HPDU Completion a very fruitful and rewarding experience.



Message from

Naoji YUI / 油井 直次

Former President, Eiken Foundation of Japan

Former Auditor of High School Parliamentary Debate Union of Japan

公益財団法人 日本英語検定協会 元会長

一般社団法人日本高校生パラメンタリーディベート連盟 元監事

In 2016 the voting age was lowered from 20 to 18 marking a historic change in Japan's electoral system. Your responsibilities have increased and your voices count more than ever in shaping Japan's future. Debating skills will play an important role in helping you to analyze and decide which candidate or party you wish to support by carefully judging their arguments. You will need to think critically. Debating various kinds of motions will help you develop such skills.

The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology is including debating in Japanese high school English courses to nurture young people who are capable of actively communicating on the global stage. Studying a wide range of topics is essential and debating about them will undoubtedly enhance your English communication skills. We hope that the experiences you acquire through these debates will broaden your perspectives and enable you to be active members of the global community.

◆ 大会委員名簿 - Organizing Committee -

大会運営委員会 (HPDU 役員)	委員長	北原 隆志	渋谷教育学園渋谷中学高等学校教諭、HPDU 理事長、ESUJ 特別参与
	実行委員	小林 良裕	豊島岡女子学園中学高等学校教諭、東京学芸大学大学院連合学校教育 学研究科博士課程在籍、HPDU 理事、ESUJ 特別参与
		浜野 清澄	さいたま市立浦和高等学校教諭、HPDU 理事
		天海 揚介	OBOG 代表、HPDU 理事
		西崎 真広	明星中学校・高等学校教諭、HPDU 理事
		須田 智之	筑波大学附属駒場中・高等学校教諭、HPDU 理事
		河野 周	聖光学院中学校高等学校教諭、HPDU 理事、ESUJ 特別参与
		Melvin Lai	東洋英和女学院教諭
		仮屋まどか	立教女学院中学校・高等学校教諭
		土屋 紀子	渋谷教育学園渋谷中学高等学校講師
	監事	小野暢思	合同会社 Tokyo Debate Academy 代表
顧問	名誉顧問	明石 康	公益財団法人 国立京都国際会館 理事長 一般社団法人 日本英語交流連盟 (E S U J) 元副会長 元国連事務次長
	名誉顧問	沼田 貞昭	一般社団法人 日本英語交流連盟 (E S U J) 名誉会長 元駐カナダ大使
	顧問	加藤 一郎	千葉大学客員教授, 元全農代表理事専務
	顧問	新庄 一郎	弁護士, 元検察庁検事正
	顧問	酒井 弘行	公認会計士, 元 K P M G ジャパン 日本代表, 元あずさ監査法人理事長
	顧問	下野 雅承	元日本 IBM 社長
	顧問	讃井 暢子	元一般社団法人 日本経済団体連合会常務理事
	顧問	油井 直次	元公益財団法人 日本英語検定協会会長
	大会主顧問	岡田 真樹子	一般社団法人 日本英語交流連盟 (E S U J) 常務理事 元山梨英和大学 人間文化学部人間文化学科 教授
	大会特別顧問	綾部 功	東海大学 文学部英語文化コミュニケーション学科 教授、ESUJ 理事
	大会特別顧問	中川 智皓	大阪府立大学 工学研究科 機械工学分野 准教授、PDA 代表
	HPDU 西日本代表	西山 哲郎	静岡聖光学院中学校・高等学校校長補佐
	四国・九州代表	加藤 彰	九州大学 非常勤講師 / 学術研究者
チーフコーチ		小野 暢思	国内外の各種パラメンタリーディベート大会で優勝 35 回、ベ ストスピーカー賞 28 回、2015 年パラメンタリーディベート世界 大会 (World Universities Debating Championship) ESL 部門 Quarter Finalist、EFL 部門 4th Best Speaker]

※ H P D U の大会は全てボランティアにより運営されています。



The English-Speaking Union of Japan

一般社団法人 日本英語交流連盟

<https://www.esuj-gr.jp>

The English-Speaking Union of Japan (ESUJ)は、日本の人たちが国際コミュニケーションの「道具」としての英語に慣れ親しむようになることを目的として、1998年10月に創立された非営利団体です。英国を中心とする世界的ネットワークである English-Speaking Union (ESU)*の一員として、様々な活動をしています。

中でもパラメンタリーディベートは、創立以来の主要な活動であり ESUJ 大学対抗ディベート大会、ESUJ 社会人ディベート大会、HPDU 杯を通じてディベートの普及活動を行ってきました。また、ESUJ は 25 年間に渡り 102 人の世界トップディベーターを日本に招聘しジャッジやモデルディベーターとして活躍してもらい、全国にパラメンタリーディベートを紹介してきました。

2023 年に ESUJ Debate Club を発足し、誰でも参加できるディベート練習会や研修会、そして交流会を開催しています。国内最高峰のディベートメンターが指導する教員研修会も実施しています。

ESUJ はこのほかにも parliamentary debate、public speaking、communication skills に関する研修会と練習会、グローバルに活躍する専門家による講演会、交流会や outing event を開催しています。ESUJ 会員になって頂くと様々な特典があります。みなさまのご参加をお待ちしております。 <https://www.esuj.gr.jp/debate/>

*ESU (English-Speaking Union)は 1918 年に英国で発足し 100 年の歴史を持つ英国王室認可の教育チャリティー団体です。世界約 50 カ国でディベート、スピーチ、ドラマなどのコンテスト、国際情勢に関する講演会、会員の交流と英語コミュニケーションのための多彩なプログラムを実施しています。英国で最も古く由緒ある中学高等学校パラメンタリーディベート大会(Schools' Mace)を主催しています。

(<https://www.esu.org>)

第 14 回 日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 HPDU Competition 2025

□ 趣旨

全国の高校生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を養う。また、参加者間の交流を図り、共に学び合う関係を作る。

□ 日時・場所

- 1) 都道府県大会 2025 年 1 月～2 月中 ※場所は各地域で決定し実施する。
- 2) 全国大会予選 (50 チーム) 及び決勝トーナメント(予選上位 8 チーム)、並びにトーナメント 2 (予選 9 位～16 位のチーム)
期間： 2025 年 3 月 21 日 (金) 15:30 ～ 23 日 (日) 17:00
会場・宿泊施設： オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1
※3 月 21 日は、センター棟 417 に午後 3 時～3 時 20 分に集合

□ 内容

- 1) World Schools Debating Championships (WSDC) Style (但し本大会用に修正を加えたもの) による即興型英語ディベート大会。1 チーム 3 名、予選 4 試合 (2～4 試合目はパワーペアリング) による各チームの勝ち数と得点ポイントで順位を決め、上位 8 チームによる決勝トーナメント。またベスト 9～16 チームによるトーナメント 2 を実施する。
- 2) パラメンタリーディベートのスキル向上のためのワークショップ及びモデルディベート
- 3) 協賛企業による「今必要とされる人材」について等のプレゼンテーション

□ 参加資格

日本高校生パラメンタリーディベート連盟に公式認定された各都道府県大会に参加して出場権を獲得した日本に住所を有する高校に在学している学生(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)、または本連盟より特別に出場権を与えられた者 (同一都道府県内に出場希望校が一校であった場合など)。同一校のチームの参加とする。ただし、英会話スクールなど高等学校以外の団体は例外とする。

□ 参加費

1 チームにつき 20,000 円 (選手及び引率者の大会中の食費と宿泊費を含む。)

□ 文部科学大臣賞

文部科学大臣賞は、日本国内において様々な分野で顕著な活躍或いは成果を挙げた個人又は団体に対し、文部科学大臣の名により授与する賞です。本大会では優勝チームの各個人に授与します。

□ 日本英語検定協会賞

ベストスピーカー賞第1位受賞者、決勝トーナメント出場校に図書カードを贈呈します。

□ 日本フィルハーモニー交響楽団

上位4チームに日本フィルハーモニー交響楽団のコンサートチケットと音楽CDを贈呈します。

□ アルク賞

上位16チームに書籍を贈呈します。

全国大会優勝校持ち回りの優勝カップ
「HPDU杯」について

2018年、都道府県大会が本格的に開催されたことを記念して、有限責任あずさ監査法人様が持ち回りの優勝カップを寄贈してくださいました。高校生によるパラメンタリーディベート国内大会の最高峰に立ったチームに授与されるにふさわしい素晴らしいカップです。

そこに皆さんの学校名が入ったペナントをしっかりと結ぶことを目指して、最高のパフォーマンスをして下さい。



英検 IELTS

Q検索

留学は「英検 IELTS」で検索

IELTS
(アイエルツ)とは

IELTS (International English Language Testing System)は、英語圏への留学や就労、移住を志す人の英語能力を評価するために作られたテストです。オーストラリア、アメリカ、イギリス、カナダなど世界140カ国で11,000以上の機関がIELTSを受け入れ基準として認定しています。

英検協会運営のIELTSに申し込む4つのメリット！

メリット① 受験料が最安値！

IELTSは運営団体によって受験料が異なります。
英検協会運営のIELTSは受験料最安値※の¥25,380です。
※2025年3月1日現在の正規受験料の比較。各種割引クーポンを利用する場合を除く。



IELTS公式
東京テストセンター外観

メリット② 試験会場が好立地でほぼ毎日受験可！

コンピューター版 東京テストセンターはJR東京駅八重洲口から徒歩2分。
特定日を除き毎日試験を開催しています。

メリット③ 全国主要都市で開催！

ペーパー版試験会場を、北海道、東北、関東、北陸・甲信越、東海、関西、中国地方の幅広い地域に設置。地方在住者も受験可能です。

メリット④ 無料学習サポート特典有り！

40回分の模擬テスト、解説動画、IELTS専門家によるフィードバック等の無料学習サポートが利用可能です。

英検 IELTS 公式 X
(旧Twitter) アカウント

詳細・お申し込み <https://www.eiken.or.jp/ielts/>



@ielts_eiken

Follow me!
IELTSに関する情報を
タイムリーに発信しています！

英検 公益財団法人
日本英語検定協会

BRITISH
COUNCIL

IELTS

Official Test Centre

◆ 大会参加にあたっての注意事項 - Notes for Participants -

- ① 生徒・引率者は大会期間中、学校または自宅から大会会場まで通える距離であっても、指定の宿泊施設に宿泊することが原則必要です。
- ② 当日は、顧問の方、もしくは保護者の方等、緊急時に対応していただける成人の方がご引率ください。引率をつけることは出場条件であり、引率の方の体調が良くない場合は、代わりの方をお願いいたします。
- ③ 参加者の事情で食事や宿泊ができない事態が生じて、参加費の返却はできません。
- ④ 本大会では、他のパラメンタリーディベートの大会と同様、論題発表後の準備時間そして試合中にチームのパートナー以外の者と口頭、メモ、その他の電子的な手段で相談することを禁じます。
- ⑤ ディベーターは準備時間内にチーム内の者以外と相談することはできません。
- ⑥ ディベーターは準備時間内そして試合中に、電子辞書を除いた電子機器(例 インターネット接続機能を持ったタブレット・コンピューター等)を使用することはできません。
- ⑦ ディベーターはストップウォッチかタイマーを持参してください。試合中にストップウォッチとして携帯電話を使用することも禁じます。上記のように電子辞書の使用は可能ですが、タブレット型端末(iPadなど)の辞書アプリの利用は禁止します。
- ⑧ スピーチ中のチームメイトにメモ等でコミュニケーションをはかることを禁じます。
- ⑨ Point of Order (試合中に対戦相手のルール違反を指摘する行為)は禁止します。ルール違反があった場合、ジャッジが判断をするものとします。試合進行上支障をきたすルール違反があった場合、ジャッジが適切な処置をします。
- ⑩ Constructive Speech に対してPoint of Information (POI) を行う場合「Point」「Point of Information」といった表現で POI による発言の許可をスピーカーに求めてください。5分間の最初と最後の30秒間(決勝は7分間なので最初と最後の1分間)は POI 不可。POI により発言を許可された者は、15 秒間だけ発言を許されます。Reply Speechに対してはPOI 不可。
- ⑪ 相手チームの引率者と選手自身の承諾なしに、他校の生徒のスピーチを録音、撮影、録画することは禁止です。
- ⑫ HPDUの記録担当が撮影したものに関しては、後日、HPDUや大会の支援団体のホームページ、後援・共催・協力団体への報告書、HPDUや支援団体についての説明会や講演及び記事や書籍で使うことがあります。こちらに同意していただくことが、本大会の参加条件になっています。
- ⑬ 大会の様子は本大会のメディアパートナーである読売新聞社が取材し、同社の媒体で紹介される予定であり、写真撮影も行うことをご了承ください。読売新聞の記事に関してもHPDUや支援団体の報告書などで使うことがあります。こちらに同意していただくことも本大会の参加条件となっています。その他、主催者が取材を許可したメディアについても同様です。ただし、大会そのものではなく、特定の参加校や個人の取材については、対戦校の引率者と選手の同意を要します。
- ⑭ 急な発熱などにより選手を変更せざるをえない場合は、開会式の開始までに連絡してください。代わりの選手が見つからず、2名以下での参加となってしまった場合は、個人賞の対象にはなりませんが、シャドウチーム扱いとなり優勝トーナメントには出場できません。

◆ 出場校 - Participating Schools -

*学校名また英語名はチーム登録時に申請されたものをそのまま用いています。

岩手県	岩手県立一関第一高等学校	Ichinoseki Daiichi Senior High School
岩手県	岩手県立盛岡第一高等学校	Morioka Daiichi High school
宮城県	宮城県仙台第二高等学校	Miyagi-ken Sendai Daini Senior High School
茨城県	茨城県立水戸第一高等学校	Ibaraki Prefectural Mito First High School
茨城県	茨城県立日立第一高等学校	Ibaraki Prefectural Hitachi Daiichi High School
茨城県	清真学園高等学校・中学校	Seishin Gakuen High School
栃木県	栃木県立宇都宮高等学校	Tochigi Prefectural Utsunomiya High School
栃木県	栃木県立宇都宮東高等学校	Tochigi Prefectural Utsunomiya Higashi High School
栃木県	栃木県立大田原女子高等学校	Tochigi Prefectural Otawara Girls' Sr. High School
埼玉県	さいたま市立浦和高等学校	Saitama Municipal Urawa High School
埼玉県	埼玉県立川越女子高等学校	Saitama Prefectural Kawagoe Girls' High School
埼玉県	埼玉県立大宮高等学校	Omiya High School
千葉県	市川学園 市川高等学校	Ichikawa Senior High School, Ichikawa Gakuen
千葉県	渋谷教育学園幕張高等学校	Makuhari Senior High School
千葉県	千葉県立成田国際高等学校	Chiba Prefectural Narita Kokusai High School
千葉県	東邦大学付属東邦高等学校	Toho High School
東京都	攻玉社高等学校	Kogyokusha High School
東京都	三田国際学園高等学校	Mita International High School
東京都	渋谷教育学園渋谷中学高等学校	Shibuya High School
東京都	筑波大学附属駒場高等学校	Senior High School at Komaba, University of Tsukuba
東京都	東京都立三田高等学校	Tokyo Metropolitan Mita High School
東京都	東洋英和女学院	Toyo Eiwa High School
神奈川県	カリタス女子高等学校	Caritas Senior High School
神奈川県	慶應義塾湘南藤沢中・高等部	Keio Shonan Fujisawa Junior & Senior High School
神奈川県	神奈川県立柏陽高等学校	Kanagawa Prefectural Hakuyo High School
神奈川県	聖光学院高等学校	SEIKO
神奈川県	洗足学園中学高等学校	Senzoku Gakuen Junior and Senior High School
富山県	富山国際大学附属高等学校	Toyama University of International Studies High School
福井県	福井県立藤島高等学校	Fukui Prefectural Fujishima Senior High School

山梨県	山梨県立甲府西高等学校	Kofu Nishi High School
長野県	長野県屋代高等学校	Yashiro High School
静岡県	学校法人誠心学園 浜松開誠館 中学校・高等学校	Hamamatsu Kaiseikan High School
静岡県	静岡県立三島北高等学校	Shizuoka Prefectural Mishima Kita Senior High School
静岡県	静岡県立清水東高等学校	Shizuoka Prefectural Shimizu Higashi High School
静岡県	静岡県立浜松西高等学校	Shizuoka Prefectural Hamamatsu Nishi High School
静岡県	藤枝明誠高等学校	Fujieda Meisei High School
愛知県	東海高等学校	Tokai High School
愛知県	南山高等学校女子部	Nanzan Girls'
大阪府	関西創価高等学校	Kansai Soka High School
兵庫県	神戸大学附属中等教育学校	Kobe University Secondary School
岡山県	岡山県立岡山城東高等学校	Okayama Prefectural Okayama Joto Senior High School
広島県	広島県立尾道東高等学校	Hiroshima Prefectural Onomichi Higashi High School
徳島県	徳島県立城ノ内中等教育学校	Tokushima Prefectural Johnouchi Secondary School
徳島県	徳島県立徳島北高等学校	Tokushima Kita High School
福岡県	福岡県立香住丘高等学校	Kasumigaoka High School
福岡県	福岡県立東筑高等学校	Fukuoka Prefectural Tochiku Senior High School
熊本県	熊本県立熊本北高等学校	Kumamoto Kita High School
鹿児島県	ラ・サール高等学校	La Salle High School
鹿児島県	鹿児島県立甲南高等学校	Konan High School
鹿児島県	鹿児島県立鶴丸高等学校	Tsurumaru High School

— 以上 50 校

◆ 大会日程 - Tournament Schedule -

■ 3月21日 (金) 第 1 日目

15:00	受付、入場 (センター棟・417)
15:30	開会式
16:20	◇ プレゼンテーション① 公益財団法人日本英語検定協会 ・引率者ミーティング (センター棟・416にて)
17:00	宿泊施設チェックイン、夕食 (センター棟2階・カフェテリア「ふじ」にて各自)
19:00	◇ モデルディベート (センター棟417にて) ◇ プレゼンテーション② iaeグローバルジャパン株式会社 「グローバル人材の発揮:価値の多様性の中で」 プレゼンター: 畠山直子 (iaeグローバルジャパン株式会社 代表取締役)
21:00	伝達後解散

■ 3月22日 (土) 第 2 日目 予選

7:30	朝食 (カフェテリア「ふじ」にて各自)
8:30	入場、点呼開始 (センター棟・417)
8:45	○ 第1試合の対戦表・論題発表 (準備時間20分)
9:10	第1試合 (試合時間 約50分)
	試合後ジャッジによる勝敗の説明
10:50	○ 第2試合の対戦表・論題発表 (準備時間20分)
11:15	第2試合 (試合時間 約50分)
	試合後ジャッジによる勝敗の説明 (結果送信を含め30分以内)
12:35	昼食 (カフェテリア「ふじ」にて各自)
14:00	○ 第3試合の対戦表・論題発表 (準備時間20分)
14:25	第3試合 (試合時間 約50分)
	試合後ジャッジによる勝敗の説明 (結果送信を含め30分以内)
16:05	○ 第4試合の対戦表・論題発表 (準備時間20分)
16:30	第4試合 (試合時間 約50分)
	ジャッジによる勝敗の発表なしのアドバイス
18:00	夕食 (カフェテリア「ふじ」にて各自)
19:30	集合・点呼 (センター棟・417) ◇ プレゼンテーション ③ 株式会社トモノカイ プレゼンター 中村円香・Hay Mar Soe Min ◇ ワークショップ
21:00	伝達後解散

■ 3月23日(日) 第3日目 決勝トーナメント & トーナメント2

7:00	シーツ回収 朝食 (カフェテリア「ふじ」にて各自)	
9:00	集合、点呼 (セ417)	
9:10	トーナメント出場チーム発表	
9:30	○ 準々決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分)	
10:00	準々決勝 (試合時間 約50分)	
11:05	○ 準決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分) [セ417]	[11:10~12:00] [準決勝と同時進行] ○ ワークショップ
11:40	準決勝 (試合時間 約50分)	
12:20	昼食 (カフェテリア「ふじ」にて各自)	
13:30	○ 決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分) [センター棟417] ◇ アンケート記入	
14:00	決勝 試合開始 (試合時間 約 60 分)	
15:30	閉会式、表彰	
16:30	解散	

*準々決勝、準決勝の constructive speech は各5分です。決勝だけ7分になります。
また3日目の試合は全て準備時間が25分です。

オリンピックセンター施設の

ガイド・地図 (Facility Maps)

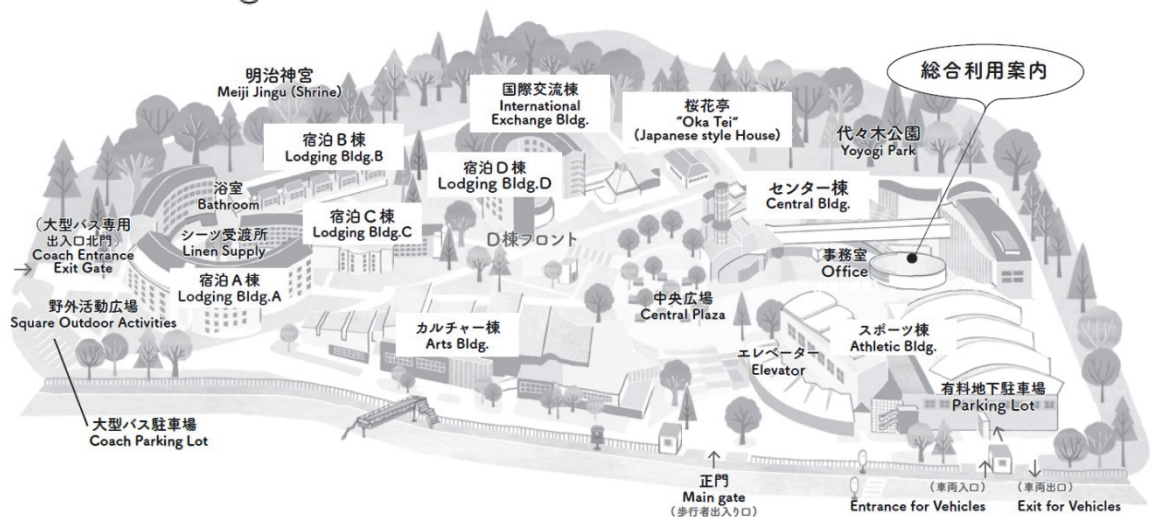


◆ カフェテリア『ふじ』営業時間

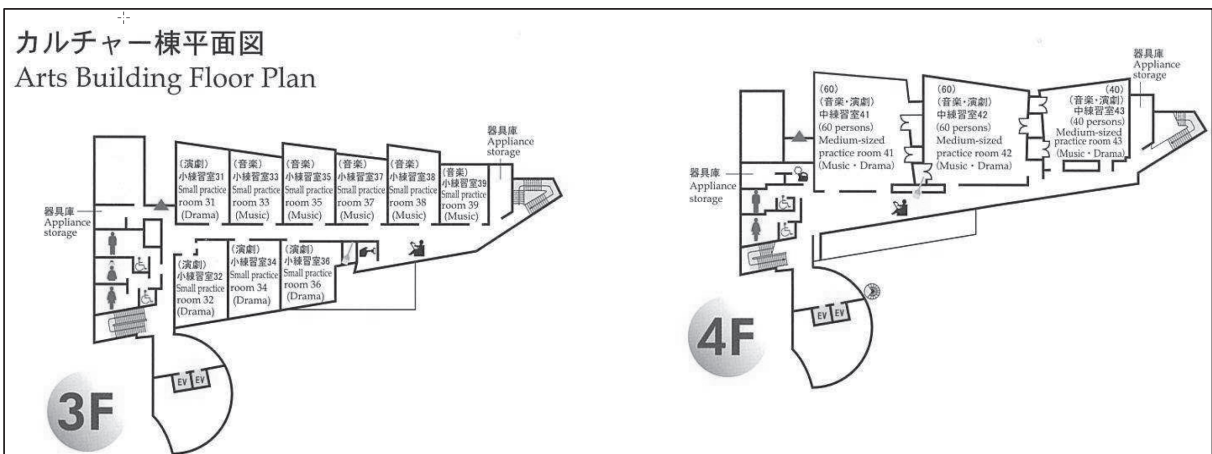
朝食 7:30~8:30 昼食 11:45~13:30 夕食 17:30~18:30

◆ 施設内コンビニエンスストア [宿泊D棟1階 交流プラザ横]

営業時間 8:30~19:00



Central Building Floor Plan



◆ 試合形式 - Debate Format -

[参加人数] 6人 (1チーム3人 × 2チーム)

[話す順番と役割]

*Constructive Speech での POI への Protected Time はスピーチ制限時間の最初と最後の 30 秒間 (決勝のみ 1 分)

Affirmative Side	Negative Side
準備時間 (1 日目の予選は論題発表から試合開始まで 20 分 / 2 日目の決勝トーナメントでは 25 分)	
<u>Constructive Speech (各 5 分 / 決勝のみ各 7 分)</u>	
◆ Prime Minister(PM) (1) 論題を確認し曖昧な語を定義し、何を政府側が立証するか説明 (2) 論題を肯定する大まかな理由の提示 (3) 試合で自分とメンバーとそれぞれ何を説明するか、アウトラインの提示 (4) 肯定側の根拠を複数の議論に分け説明	◆ Leader of the Opposition (LO) (1) PM の定義を確認し必要があれば再定義して野党側が何を否定するか説明 (2) いかなる理由から論題を否定するか、大まかに説明 (3) 試合で、自分とメンバーが何を説明するか、アウトラインを示します。 (4) 政府側の出した議論に対して反論 (5) 野党側の根拠を、複数の議論に分け説明
◆ Member of the Government (MG) (1) 否定側との立場の違いを大まかに説明 (2) 否定側の議論に対して反論 (3) 肯定側の新しい議論を導入 (4) 否定側による反論に対して立て直し	◆ Member of the Opposition(MO) (1) 政府側との立場の違いを大まかに説明 (2) 政府側の議論に対して反論 (3) 野党側の新しい議論を導入 (4) 肯定側による反論に対して立て直し
◆ Government Whip (GW) (1) 試合を総括する観点の導入 (2) 否定側の議論全てに対し反論 (3) 反論された議論を全て立て直し	◆ Opposition Whip (OW) (1) 試合を総括する観点の導入 (2) 肯定側の議論全てに反論 (3) 反論された議論を立て直し
<u>Reply Speech (各 4 分)</u>	
◆ Government Reply (1) 試合を総括する観点の導入 (2) 肯定側が試合に勝った理由の説明	◆ Opposition Reply (1) 試合を総括する観点の導入 (2) 否定側が試合に勝った理由の説明

◆ 大会ルール - Tournament Rules -

以下は大会ルールの要旨です。ルールに関して判断が必要な場合は、大会運営委員長が最終的な判断を行います。

[出場登録について]

- ・ 同じ高校に在籍する生徒 3 名で 1 チームの登録となります。各試合ごとに、チーム内でのスピーチ役割は変更しても構いません。
- ・ 日本の高校に在籍している限り、海外経験や国籍などによる本大会への出場制限はありません。

[対戦組み合わせについて]

- ・ 第 1 試合の対戦組み合わせは事前にランダムで決められています。予選 2 試合目、3 試合目、4 試合目はパワーペアリングによって決められます。
- ・ 予選 4 試合の勝敗数、そして勝敗数が同じチーム間ではスピーカーズ・スコアの総得点で、予選の順位を決定します。勝敗数、スピーカーズ・スコアの総得点と同じであったチームがあった場合、対戦チームとのスピーカーズ・スコア総得点の点差が、累計でより大きかったチームを上位チームとします。
- ・ 上位 8 チームが決勝トーナメントに進出し、準々決勝では予選の成績が良かった順に 1～8 の番号を振り、以下の通りで対戦を行います。

[準々決勝 A] team 1 対 team 8 [準々決勝 B] team 2 対 team 7

[準々決勝 C] team 3 対 team 6 [準々決勝 D] team 4 対 team 5

* トーナメント 2 の対戦組み合わせは、9 位～16 位を同様に割り振ります。

[試合開始前の準備時間について]

- ・ 論題は、予選では試合開始の 20 分前に発表されます。論題発表後以降は、ディベーターはチームメイト以外と相談してはいけません（顧問とも相談してはいけません）。決勝トーナメントでは、準備時間は 25 分です。
- ・ 高価な道具を用意できたかどうかによって勝敗が左右されることがないように、論題発表以降は、ストップウォッチ、電子辞書専用機を除いた電子機器の使用は許されません。携帯電話やタブレット端末をストップウォッチの代わりに用いることも禁じます。

【スピーチの順番および時間（予選試合）】 * 決勝の試合のみ Constructive Speech を各 7 分とします。

準備時間 20 分	
1) Prime Minister(PM) (5 分)	
	2) Leader of the Opposition (LO) (5 分)
3) Member of the Government(MG) (5 分)	
	4) Member of the Opposition(MO) (5 分)
5) Government Whip (5 分)	
	6) Opposition Whip (5 分)
	7) Opposition Reply (4 分)
8) Government Reply (4 分)	

[試合の流れ]

- ・予選試合では、最初の 6 つのスピーチ(Constructive Speech)は各 5 分間、そして Reply speech は 4 分間となります。
- ・各 Constructive Speech の最初と最後の 30 秒間を除いた時間では、対戦相手のチームは Point of Information(POI)を行うことができます。POI がスピーカーから許可された場合、最長で 15 秒だけ話すことができます。POI を求める際には、まず必ず起立してください。
- ・Reply Speech は、チームの 1 人目または、2 人目のスピーカーのいずれかが行います。Whip Speaker が Reply speech を行うことは出来ません。
- ・あるスピーカーが、与えられた時間よりも早くスピーチを終えた場合は、時間の経過を待つことなく次のスピーカーのスピーチに移ります。あるスピーカーが 30 秒以上超過してスピーチを続けた場合、ジャッジが強制的にスピーチを終了させます。

[スピーカーの役割]

- ・各チーム最初の 2 人のスピーカーは、それぞれ肯定または否定側の議論を示し、また相手チームの議論に最低限の反論をします。
- ・3 人目の Whip speaker は、主に相手チームの議論への反論、そして反論された内容を受けての議論の立て直しを行います。
- ・Reply Speech では、どうして自分たちのチームがその試合で勝利したのか、いくつかの争点に絞って説明を行います。

[勝敗について]

- ・各試合では、勝敗と各スピーカーの個人得点が決められます。Constructive Speech では、75 を基準に上下 8 点の幅で各スピーチに得点が与えられます。Reply speech では、37.5 を基準に上下 4 点の幅で得点が与えられます。
- ・予選第 1 試合、第 2 試合ではジャッジが試合終了後に口頭で試合の勝敗とその理由を説明します。

Constructive Speeches (out of 100)

Standard	Overall
Excellent	82-83
Good	79-81
Above Average	76-78
Average	75
Below Average	72-74
Poor	69-71
Extremely Poor	67-68

Reply Speeches (out of 50)

Standard	Overall
Excellent	41 – 41.5
Good	39.5 – 40.5
Above Average	38 – 39
Average	37.5
Below Average	36 – 37
Poor	34.5 – 35.5
Extremely Poor	33.5 – 34

世界の舞台で輝く人材になる ～海外進学を通して身に着く能力～

「英語を流暢に話せる人＝グローバル人材」と思われがちですが、決してそうではありません。一步外に出れば、英語だけではなく第二、第三ヶ国語を流暢に使い分ける人材を目にすることも多くなりました。では、世界で輝く「グローバル人材」とはどんな人材なのでしょう。これについて明確な定義はありませんが、グローバル社会で活躍している方々の話を総合すると、下記のソフトスキルがこれからの時代に求められているスキルだと考えられます。

グローバル社会が求めるソフトスキル



このようなスキルを習得するにはどうしたらいいのでしょうか。一つの選択肢として挙げられるのが**海外留学**です。海外留学と聞くと、多くの人は語学力を高めるための手段と考えがちですが、海外進学を通して培われる能力は非常に幅広く、ハードスキルからソフトスキルまで多様です。海外へ進学することで、ここに挙げたような日本ではあまり経験できない教育を受け、技術を高めることができる他、生活面では、その土地の文化に触れることで、異文化・多文化理解を深め、自分のアイデンティティを確立することができます。

世界中が進学の実績です

私共 iae 留学ネットは、世界各国に 700 を超える教育機関、1500 を超えるキャンパスとの提携を持っています。毎年 22,000 人以上の留学生をサポートし、アジア最優秀エージェンツ賞を 4 度受賞いたしました。30 年以上に亘り培ってきたノウハウで、数ある選択肢の中からあなたの可能性を最大限に引き出せる留学プランをご提案致します。

iae留学ネットにおまかせください！

iae留学ネットでは語学学校から海外トップスクールへの進学まで、あらゆる留学を無料でサポートしています。

留学サポート実績

世界各国 700 校以上の教育機関と提携、毎年 22,000 人の留学サポート



カリフォルニア大学
アーバイン校 (アメリカ)
University of California,
Irvine (US)

UCLA

カリフォルニア大学
ロサンゼルス校 (アメリカ)
University of California,
Los Angeles (US)



ミシガン大学
(アメリカ)
University of Michigan
(US)

US

サセックス大学
(イギリス)
University of Sussex
(UK)

EXETER

エクセター大学
(イギリス)
University of Exeter
(UK)



ブリティッシュ
コロンビア大学 (カナダ)
University of
British Columbia (Canada)



オーストラリア国立大学
(オーストラリア)
Australian National
University (Australia)
CRICOS00120C



シドニー大学
(オーストラリア)
University of Sydney
(Australia)
CRICOS0026A



クイーンズランド大学
(オーストラリア)
University of Queensland
(Australia)
CRICOS0025B



オークランド大学
(ニュージーランド)
University of Auckland
(New Zealand)

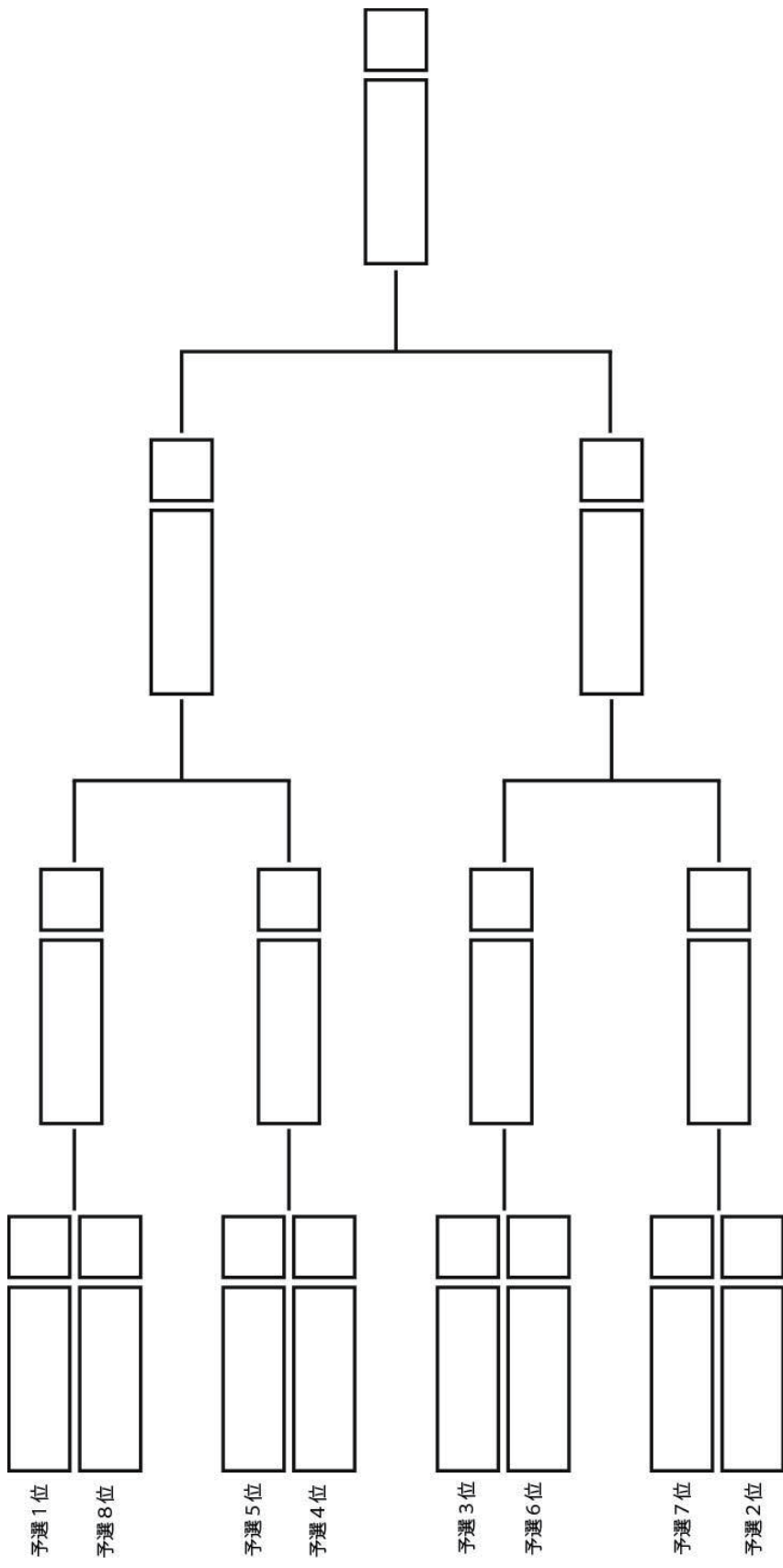
世界中の大学情報がありません

記載されている学校以外にも様々な大学、語学学校、ホームステイなど、すべての人に留学を成功させていただくためのプランをご用意しております。無料個別カウンセリング、メール・電話・LINE・Skypeでの無料相談、各種イベントやセミナーなども随時開催中です。



QRコードアクセスで
出願料無料！

■ Main Tournament





Power in ME



#Photos from 留学生 around the world!!



トモノカイとは…？

カジュアルな会話はもちろん、社会問題などの話題まで幅広く留学生と一緒に考えるプログラムも運営しています。

トモノカイは、国際教育として年間約120校の皆様と、「共生社会で生きる力を耕す国際交流」を行っております。4500名125名の外国人留学生（大学院生が9割）から選ばれた「パディ」とともに、教室の中で、英語をツールとして世界の人と一緒に楽しみ、一緒に考え、一緒につくる経験を、「すべての中高生」に向けて届けております。



▲生徒様280名のプログラムに参加した、70名（38か国）の留学生

▼プログラムの様子はこちらから！
<https://youtu.be/k7ZDdWKd0wM>



◆実績一覧

- （導入校様の一部のみ抜粋/50音順・敬称略）
- ・開智日本橋学園高等学校
- ・静岡県立浜松北高等学校
- ・渋谷教育学園渋谷中学高等学校
- ・淑徳巣鴨中学高等学校
- ・成立学園中学・高等学校
- ・大東文化大学第一高等学校
- ・八千代松陰中学校・高等学校
- ・横浜隼人中学高等学校
- ・横浜富士見学園中学校・高等学校

◆お問い合わせ

株式会社トモノカイ グローバル教育共創室
050-1741-1243(平日10時～18時)
info.global@m.tomonokai-corp.com

みなさんへ、 トモノカイの留学生からメッセージ

研究の経験を活かして 大学の講師になりたい



Ria

カンボジア出身。

日本では早稲田大学で建築を専攻し、修士号を取得。その後、同大学で博士号取得のためさらに研究を続けている。呪術廻戦が大好き！

Hello all, I am Ria and am currently a Ph.D. candidate in the field of urban design at Waseda University.

My motivation for pursuing higher education in Japan is simple—I love studying and doing research. Research allows me to ask questions, seek answers, and contribute to knowledge in meaningful ways. Beyond that, I aspire to become a university lecturer, where I can share what I have learned, guide students in their own academic journeys, and foster a passion for critical thinking and discovery.

When I first arrived in Japan, I was stepping into the unknown. Studying in a foreign language was daunting, and there were moments when I struggled to express my thoughts clearly in my study. But, over time, I realized that communication is not just about perfect grammar or flawless pronunciation, it is about conveying ideas, listening with an open mind, and embracing different perspectives. That is why I admire all of you for taking on the challenge of debating in English. Debate is more than just arguing for or against a topic. It is about thinking critically, supporting your ideas with logic and evidence, and understanding different viewpoints. These are the skills that helped me navigate my academic journey and will continue to guide me toward my dream of becoming a university lecturer.

I know standing on stage and speaking in a language that is not your own might feel intimidating. But remember—every word you say, every argument you make, is a step toward growth. No matter the outcome, you are gaining something valuable: confidence, adaptability, and the courage to express yourself.

I hope you make wonderful memories at the competition and take pride in how much you have learned. Best of luck and, most importantly, have fun!

様々な視点から物事 を見る力をディベートで

My name is Linus Van Plata (ライナス・ヴァン・ブラータ), and I am honored to write to you today. I come from the Philippines, but Japan has played a special role in my life. As a high school student, I lived in Gunma Prefecture with a Japanese family who became my own. That experience shaped my love for language, culture, and global perspectives.

Since then, my journey has taken me through different roles—working for the Office of the President of the Philippines, teaching as a communication professor at the University of the Philippines, and now pursuing my PhD in Global Studies at Doshisha University in Kyoto. This year, I am also launching a fun YouTube channel, ライナス先生, where I will teach English for TOEIC, EIKEN, daily conversation, and business English—something I am deeply passionate about.

Looking back, one thing has always been clear to me: the power of words. Debate is not just about arguing a case—it's about learning to express yourself with clarity, confidence, and purpose. Whether in a classroom, in government, or in international settings, the ability to articulate ideas and engage with different perspectives is a skill that will take you far.

As you take part in HPDU, I encourage you to embrace this experience fully. Challenge yourself, listen deeply, and speak with courage. Win or lose, the real victory lies in the knowledge, friendships, and confidence you gain along the way. Wishing you all the best—ganbatte!

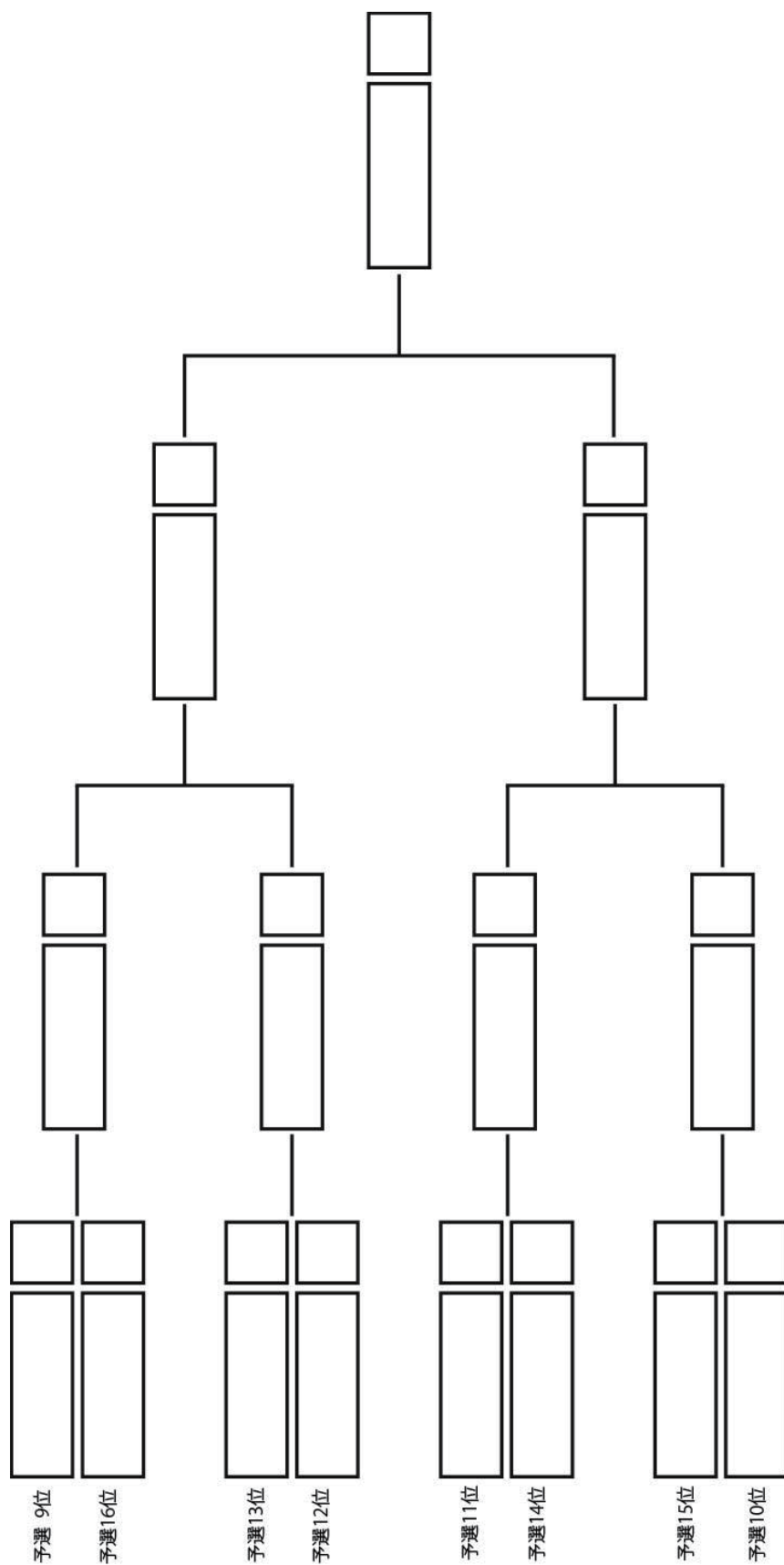


Linus

フィリピン出身。

幼少期に群馬県でホームステイをし、言語・文化に興味を持つ。現在は同志社大学でPhDとしてグローバルスタディーズを専攻しながら、TOEIC・英検・英会話を教えるYou Tubeを開設。

Tournament TWO



◆ 過去の大会の記録 - Past Tournament Results-

第1回大会 (2012年3月18日) 会場：埼玉県立伊奈学園総合高校

優勝：京都紫野高校 準優勝：さいたま市立浦和高校

Round 1	This house believes that students in elementary schools and junior high schools should be required to repeat a grade if their class performance is poor.
Round 2	This house would make voting at elections compulsory.
GF	This house would ban fortune-telling businesses.

第2回大会 (2013年3月23、24日) 会場：渋谷教育学園渋谷中学高等学校

優勝：宇都宮高校 準優勝：さいたま市立浦和高校

Round 1	This house would allow gifted students to skip grades in schools.
Round 2	This house would ban experiments on animals.
Round 3	This house believes that using the Internet in political election campaigns will do more harm than good.
QF	This house would use quotas to increase the representation of women in the Japanese parliament.
SF	This house would penalize media companies that broadcast the use of physical abuse (such as beating or kicking someone) as a form of humor.
GF	This house believes that the US federal government should ban the private use of firearms.

第3回大会 (2014年3月21、22日) 会場：代々木オリンピックセンター

優勝：国際基督教大学高校 準優勝：渋谷教育学園渋谷高校

Round 1	This House believes that parents should have the right to access all accounts of their children's social networking sites.
Round 2	This House would apply the retirement age to politicians.
Round 3	This House believes that the Tokyo Olympics venue should include the Tohoku/Fukushima area.
QF	This House would deny those who have made poor lifestyle choices and actively harmed themselves (fatty food, alcohol, smoking) the access to the national health insurance.
SF	This House believes that research institutions that actively employ female scientists should be given more research funding by the government.
GF	This House believes that Japan should not impose any sanctions on Russia regarding the Crimea issue.

第4回大会 (2015年3月14、15日) 会場：代々木オリンピックセンター

優勝：渋谷教育学園渋谷高校 準優勝：宇都宮高校

Round 1	This house would require all Internet users to use their real names.
Round 2	This house believes that gambling of all forms (e.g. lotteries, horse racing, or casinos) should be illegal.
Round 3	This house believes that governments should refuse to assist in rebuilding areas prone to natural disasters.
QF	This house would abolish death penalty.
SF	This house would provide welfare in the form of basic goods and services, rather than cash payments.
GF	This house believes that governments should negotiate with terrorists when their citizens are taken hostage by terrorist groups.

第5回大会 (2016年3月12、13日) 会場：代々木オリンピックセンター

優勝：宇都宮高校 準優勝：洗足学園高校

Round 1	This house would require broadcasters to devote equal time and prominence to coverage of female sports games as male sports games.
Round 2	This house would pay all elected politicians the median wage in their electoral district.
Round 3	This house would allow prisoners to donate their organs in exchange for shortening of their sentences.
QF	This house believes that, upon request by the authority, smart phone companies should be forced to unlock their products used by criminals.
SF	This house believes that the EU should abandon its commitment to the principle of open borders between member states.
GF	This house believes that democratic countries should not attend sporting events in countries with bad human rights records.

第6回大会 (2017年3月19、20日) 会場：さいたま市立浦和高等学校

優勝：宇都宮高校 準優勝：筑波大学附属駒場高校

Round 1	This house would ban alcohol.
Round 2	This house would abolish escalator system in schools (such as Keio, Waseda).
Round 3	This house would legalize organ transplant for profit.
QF	This house believes that US military bases should be removed from Japan.
SF	This house would abolish all laws restricting free speech.
GF	This house prefers a world without marriage.

第7回大会 (2018年3月24、25日) 会場：国際基督教大学高校 / 代々木オリンピックセンター

優勝：渋谷教育学園渋谷高校 準優勝：さいたま市立浦和高校

Round 1	This house would ban cosmetic surgery.
Round 2	This house would require doctors to report all cases of suspected domestic violence.
Round 3	This house would give right to vote to prisoners.
QF	This house would legalize euthanasia.
SF	This house would give national treasures back to its people.
GF	This house would criminalize the paying of ransom.

第8回大会 (2019年3月24、25日) 会場：代々木オリンピックセンター

優勝：渋谷教育学園幕張高校 準優勝：浅野学園高校

Round 1	This House would ban beauty contest.
Round 2	This House would introduce conscription.
Round 3	This House would completely ban broadcasting of suicide.
Round 4	This House would ban all forms of gambling.
QF	This House would ban use of combat drones.
SF	This House would trade with oppressive regimes.
GF	This House believes that free speech should include the right to offend.

第9回大会 (2020年3月22、23日) 会場: オンライン実施

優勝: 筑波大学附属駒場高等学校 準優勝: 渋谷教育学園渋谷高等学校

Round 1	This House would abolish the Olympic Games.
Round 2	This House would prohibit criminals from publishing descriptions of their crimes.
Round 3	This House believes that the state should not subsidize art.
Round 4	This House believes that feminism movement should oppose affirmative action for women.
QF	This House believes that humanitarian aid does more harm than good to active conflict zones.
SF	This House would prohibit corporations from sponsoring academic research.
GF	This House would abolish private property.

第10回 記念大会 (2021年3月21、22日) 会場: オンライン実施

優勝: 筑波大学附属駒場高等学校 準優勝: 渋谷教育学園渋谷高等学校

Round 1	This house believes that the age of digital information (e.g. social media, online news, etc.) has done more harm than good in protecting democracy.
Round 2	Given the technology, this house would erase society's memory and evidence of the criminal past of former convicts after their release from prison.
Round 3	This house prefers a world without lying.
Round 4	This house believes that, assuming Personal Protective Equipment is sufficiently available, medical workers during a pandemic should have the right to opt out of service.
QF	This house believes that spouses of political figures should not be recognized as public figures.
SF	Instead of leaving the decision up to the producing company, this house would legally require that Self-Driving Cars produced by companies always choose to maximize the number of lives saved, even if it leads to the death of the passengers.
GF	This house believes that hacking is a legitimate way of protest against multinational corporations

第11回大会 (2022年3月26、27日) 会場: オンライン実施

優勝: 栄光学園高等学校 準優勝: 筑波大学附属駒場高等学校

Round 1	This House believes that the tourism industry does more harm than good for the citizens of developing countries.
Round 2	This House, as the feminist movement, would advocate for the abolishment of boys-only and girls-only schools.
Round 3	This House would grant senior military officers a veto over military decisions made by politicians (e.g. troop deployments, specific missions).
Round 4	This House would make the number of votes an individual has inversely proportional to their wealth (i.e. the more wealth an individual has the fewer votes that individual has).
QF	This House prefers a world in which those accused of crimes remain completely anonymous to the public unless they receive a guilty verdict.
SF	This House believes that the assassination of political leaders is a legitimate tool of foreign policy.
GF	This House supports athletes using international sporting events (the Olympics, World Baseball Classic, FIFA World Cup, etc.) as platforms to protest and raise political stances.

第 12 回大会 (2023 年 3 月 25～27 日) 会場: 代々木オリンピックセンター

優勝: 渋谷教育学園幕張高等学校 準優勝: 筑波大学附属駒場高等学校

Round 1	This house believes that big businesses should encourage their employees to work from home even after pandemics are no longer a threat to public health and safety.
Round 2	This house believes that a world without extreme emotions (falling madly in love, extreme grief, boiling rage) is a better world.
Round 3	This house believes that feminism is incompatible with capitalism.
Round 4	This house believes that multinational companies should equalize wages for their workers in developing countries with those in their home countries.
QF	This house would ban tobacco.
SF	This house believes that assassination is a justifiable response to the human rights abuses and political oppression committed by political leaders.
GF	This house believes that the present condition of humanity is better than it would be in 100 years

第 13 回大会 (2024 年 3 月 22～24 日) 会場: 代々木オリンピックセンター

優勝: 渋谷教育学園幕張高等学校 準優勝: 浅野高等学校

Round 1	THBT schools should allow students to use generative artificial intelligence (e.g. ChatGPT, Gemini, etc)
Round 2	THW allow public servants to strike.
Round 3	THW also punish parents when their children commit a crime.
Round 4	THW abolish affirmative actions.
QF	THBT SNS does more harm than good to democracy.
SF	THBT developing countries should limit rural-urban migration.
GF	THBT randomly selected citizens should judge in the debate tournaments.

◆ 第14回新緑杯・第6回新芽杯(2025年6月開催予定)実施要項

第14回 日本高校生パラメンタリーディベート連盟 新緑杯 東日本大会・西日本大会 HPDU Spring Greenery Competition of East / West Japan 2025

第6回 日本高校生パラメンタリーディベート連盟 新芽杯 HPDU Sprout Cup 2025

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

後援：公益財団法人 日本英語検定協会、一般社団法人 日本英語交流連盟、一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会

協賛：iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ

協力：エイムネクスト株式会社

日時：2025年6月の日曜日に新緑杯と新芽杯を同日開催。

場所：新緑杯 東日本大会：さいたま市立浦和高等学校（予定）

新緑杯 西日本大会：オンライン（Zoom 等にて実施 予定）

新芽杯：オンライン（Zoom 等にて実施）

参加費：1チームにつき 3,000 円

主旨：（1）パラメンタリーディベートを通して高校生の総合的英語運用能力を伸ばす。

（2）新緑杯：経験者が新人ディベーターを育成する機会の提供。

新芽杯：大会出場経験が少ない高校生たちに対外試合の機会を与える。

（3）新緑杯：様々な社会問題に興味関心を持つ態度を養う。

新芽杯：身近な問題や社会の問題について論理的で説得力のあるスピーチを即興でできる力を伸ばす。

（4）高校教員のジャッジ養成。

参加資格：（1）日本に住所がある高校に在学している1学年から3学年までの生徒(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)。

（2）学校として新緑杯東日本大会、新緑杯西日本大会、新芽杯いずれか1つの大会に参加して頂くことになります。

（3）1チームにつき1名のジャッジの派遣の提供をお願いします。2～3チームを申し込みの場合は2名のジャッジ提供が必要となります。

チーム構成の条件：

（1）1チームの登録人数は3人で、1校につき3チームまで登録が可能です。各チーム内には必ず新人ディベーターが1人は含まれていることが必要です。新人ディベーターとは、1年生、またはパラメンタリーディベートの公式大会（＝要項が存在し、複数の高校が参加でき、賞の授与がある大会）に参加したことがない2、3年生を指します。

（2）同一校のチームの参加とします。ただし、英会話スクールなど HPDU が認めた高等学校以外の団体は例外とします。

新緑杯試合形式：ノースアメリカンスタイル（7分、7分、7分、7分、4分、4分）

1チーム3名、4試合（2試合目以降はパワーペアリング）、準備時間は20分。

新芽杯試合形式：ノースアメリカンスタイル（4分、4分、4分、4分、3分、3分）

1チーム3名、3試合（2・3試合はパワーペアリング）、準備時間は30分とする。

◆ SOLA Cup 2025 の実施について

SOLA Cup 2025 中高生パラメンタリーディベート国際大会の実施について

SOLA Cup 2025 High School International Debate Tournament

共同主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟、学校法人 渋谷教育学園渋谷
中学高等学校

協力：iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ、エイムネクスト株式会社

趣旨：

- 1) 全世界の高校生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を身につける意義を伝える。
- 2) 他国のディベーターとの交流の機会となる他、日本の中高生のスピーチ力が他国の生徒との対戦で通用するのか、実力を試す機会とする。
- 3) 国際大会で度々活躍されてきたジャッジから質の高いフィードバックを受け、日本の高校生がグローバルスタンダードを知る機会とする。

日時・場所：

- 1) 予選大会 2025 年 8 月 17 日（日）8：15～18：00 を予定・オンライン（Zoom を使用）
- 2) 決勝トーナメント 2025 年 8 月 22 日（金）8：15～18：30・オンライン（Zoom を使用）

内容：World School's Debating Championships (WSDC) Style（8分、8分、8分、8分、8分、8分、4分、4分。但し、予選は本大会用に修正を加え、5分、5分、5分、5分、5分、5分、3分、3分とした）による英語ディベート大会。

チームの人数は 3 ～ 5 名（試合に出場するのは 3 人だが、試合ごとに選手入替可能）。予選 4 試合（2、3、4 試合目はパワーペアリング）。各チームの勝ち数と得点ポイントで、上位 8 チームを決め、決勝トーナメント。

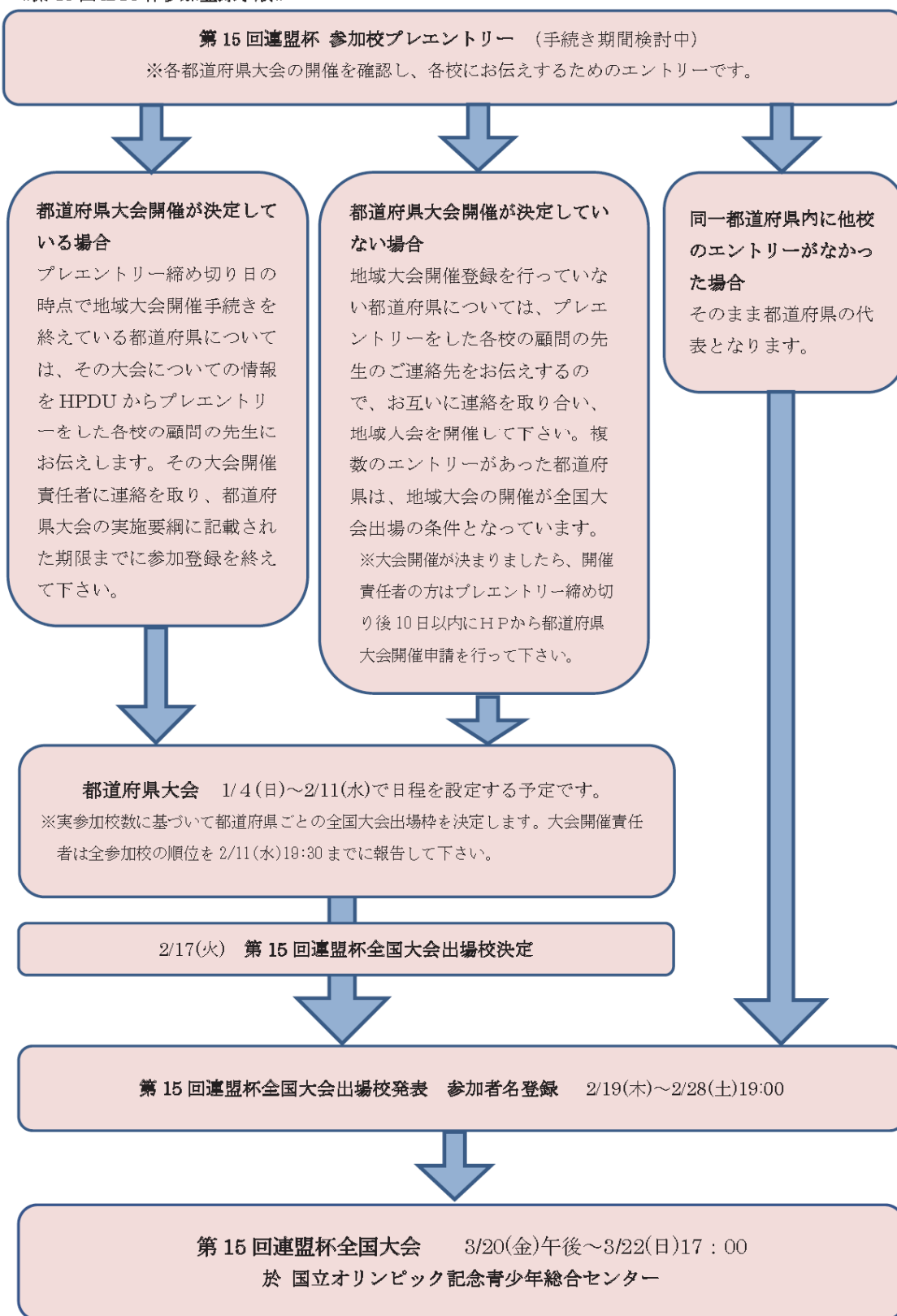
参加資格：世界中の中学・高校に在学している中学 1 年生から高校 3 年生までの生徒。チームに少なくとも 1 人がパラメンタリーディベート大会（HPDU, WSDC, Asian, BP, NA, etc.）の出場経験があること。また、その生徒は全ラウンドに出場すること。同一校・同一公式団体から最大 1 チームの参加とする。ただし、海外からの参加者は、この条件でチームを構成することが難しい場合、ジョイントも認めることとする。

参加費：無料

前回の参加国：英国、ベトナム、オーストラリア、日本 以上 4 カ国より 31 校（国内 27 校、海外 5 校）、123 名

◆ 第 15 回 HPDU 連盟杯(2026) 参加の手順

《第 15 回 HPDU 杯参加登録手順》



都道府県大会開催責任者の方へ

都道府県大会開催スケジュール

～12/15(月) 19:00 都道府県大会開催申請

都道府県大会開催登録フォーム入力。都道府県大会の募集要項をメールで HPDU に提出
募集要項の大会名は「第14回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 県名(例 東京都)
大会」、英語名を「HPDU of 県名(例 Tokyo) Competition 2025」として下さい。

※～12/25(木) 19:00 都道府県大会開催追申請

複数の学校のエントリーがあったにもかかわらず12/15(月)までに都道府県大会開催の申請がな
かった都道府県に関しては、プレエントリーをした各校の顧問の先生のご連絡先をお伝えするの
で、お互いに連絡を取り合い、地域大会を開催して下さい。

HPDUが公式認定

都道府県大会 1/4(日)～2/11(水・祝)

～2/11(水・祝) 19:30 都道府県大会結果報告

フォームで、大会結果を HPDU に報告

※全参加校に必ず順位をつけてください。実参加校数をもとに各都道府県に割り当てる
枠数を決定します。

2/19(木) 第15回連盟杯全国大会出場校決定校の発表

(各県の登録状況によっては、発表日が延期されることがあります)

HPDU 杯都道府県大会

推奨論題リスト

THW allow gifted students to skip grades in schools.
THW stop teaching English in elementary schools.
THBT teachers' salaries should be based on students' academic performance.
THBT schools should ban animal dissection.
THBT it is better for high school students to have a part-time job.
THW introduce a fat tax on junk foods.
THW ban tobacco.
THW ban cosmetic surgery.
THW ban children from becoming professional models.
THBT watching movies at home is better than watching movies at the theater.
THBT television does more harm than good.
THW ban violent video games.
THW ban combat sports.
THBT the use of animals for public entertainment should be banned.
THW make voting compulsory.
THBT the prime minister of Japan should be directly elected by citizens' vote.
THW abolish the House of Councilors.
THW introduce mandatory retirement age for politicians.
THW set quotas for women in the Diet.
THW require all Internet users to use their real names.
THW restrict advertising aimed at children.
THBT criminals trials should be broadcasted on TV.
THW abolish death penalty.
THBT torture is justified for national security.
THBT all violent juvenile offenders should be treated as adults in the criminal justice system.
THBT governments should never pay ransom to save hostage.
THW introduce conscription.
THW legalize active euthanasia.
THW legalize selling organs.
THW ban abortion.
THW abolish zoos.
THW ban whaling.
THW legalize genetically modified foods.
THW ban animal experiments.
THBT Japan should introduce the carbon tax.
THBT Japan should stop using nuclear power plants.
THBT Japan should remove import restrictions on farm products.
THW raise the consumption tax.
THW set a maximum limit on salaries.
THW stop sending humans into space.
THBT Japan should make English the second official language.

模擬 G7 Summit 2025 実施について

グローバル社会で活躍できる人材の育成を目的として発足した HPDU では、パラメンタリーディベートで身につけた力は必ず将来の役に立つということを、もっと高校生たちに実感してもらいたいと考えています。そこで、毎年、模擬 G7 Summit（高校生による模擬 G7 サミット/日本ユニセフ協会に後援）を開催しています。

【内容】 地球社会の問題について英語で話し合い、発表。

【日時】 2025 年 8 月 22 日（金）9:00～15:00 を予定

【場所】 Zoom によるオンラインで開催予定

【主催】 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

【後援】 （公財）日本ユニセフ協会に申請を予定

【参加対象】 世界各国の中高生。

【参加費】 無料

【申し込み方法】 実施要項を HP で掲載



模擬 G7 サミット 2024 活動報告（HPDU ホームページより）

今年の模擬 G7 サミット (Model G7 Summit 2024) では国内外の 35 名の中高生が青少年のデジタル安全とそれを達成する教育方法について意見を交わしました。

今回のキーノートスピーカーは、早稲田大学大学院 2 年生で教育を専攻しているスリランカ出身の Ms. Hikari Hatta で、青少年にとってのデジタル空間の危険性・原因・解決策についてお話ししていただきました。Hikari さんの出身校ではオンラインの誹謗中傷によって自殺をした仲間がいたという経験をもとに、生徒用ホットラインなど教育現場における青少年のサポート体制の大切さを語ってくださったのが印象的でした。質疑応答は 20 分にも及び、参加者の皆さんがネット安全について学ぼうとする姿勢が伺えました。アンケートでもキーノートスピーカーを絶賛する声が多くありました。次に運営委員が全員参加型のクイズを交えて現状の問題点や原因、デジタル安全の概要や現在とられている対策について運営の生徒がプレゼンテーションをしました。また多くの方がネット犯罪・誹謗中傷の件数などの数値に驚いていました。

グループディスカッションでは、「実現可能で効果的、そして明日から始められるようなデジタル安全教育を中高生独自の視点から考える」という課題に取り組みました。8 つのグループそれぞれで 3 時間にも及ぶディスカッションを通して各グループで考案したプランをまとめたプレゼンテーションを作成しました。そして、話し合いが包括的かつ円滑に進むよう、各グループにファシリテーターとして運営委員が適宜サポートを行いました。各グループのプレゼンテーションでは、アプリを通じたデジタル安全教育やデジタル安全啓発の学生団体の設立など、教育中高生の自由な発想ならではのアイデアが多く見受けられました。

プレゼン審査では、キーノートスピーカーの Hikari さんの他にあずさ監査法人の田中祥子さんと KPMG コンサルティング株式会社の長井翔平をゲストジャッジとして迎え、受賞発表と閉会式の際に講評をいただきました。事後アンケートでは「デジタル安全に関する多様な視点を知ることができた」「このイベントをきっかけに他の国際イベントにも参加してみたいと思った」「ネット犯罪の具体例を知ることができた」「違う考えを持つ仲間と話していくうちにコミュニケーション能力があがった」などの感想が寄せられ、参加者にとって実りのある一日になったことを嬉しく思います。また、担当国をグループに振ってみることやグループ以外の参加者との交流の場を設けるなど、今後の Model G7 をどう改善すればよいかのご意見もたくさんいただけてとても参考になりました。最後になりましたが、世界各地の中高生やゲストの皆様をはじめ、このサミットを成功へ導いてくださったすべての方々へ深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。（文責 渋谷教育学園渋谷中学高等学校 高 2 菅野紘子）

第 14 回日本高校生バーラメンタリーディベート連盟杯全国大会

HPDU Competition 2025 実施要領

主催：一般社団法人 日本高校生バーラメンタリーディベート連盟(HPDU of Japan)
 後援：文部科学省 (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)
 ブリティッシュ・カウンシル (British Council)
 カナダ大使館 (The Embassy of Canada to Japan)
 有限責任 あずさ監査法人 (KPMG AZSA LLC)
 一般社団法人 日本英語交流連盟 (The English-Speaking Union of Japan)
 協賛：公益財団法人 日本英語検定協会 (Eiken Foundation of Japan)
 iae グローバルジャパン株式会社 (iae GLOBAL JAPAN, Inc)
 株式会社トモノカイ (Tomonokai Co.,Ltd.)
 メディアパートナー：読売新聞社 (THE YOMIURI SHIMBUN)
 協力：株式会社アルク (ALC PRESS INC.)
 エイムネクスト株式会社 (AIMNEXT Inc)
 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 (Japan Philharmonic Orchestra)

1 趣 旨

全国の高校生に、即興型であるバーラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリエイティブ・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緊急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を養う。また、参加者間の交流を図り、共に学び合う関係を作る。

2 日 時・場 所

2025 年 3 月 21 日 (金) 15:30～ 23 日 (日) 17:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1

※3月21日は、センター棟4 1 7 に午後3時～3時20分に集合

3 内 容

- ① World Schools Debating Championships(WSDC) Style (但し本大会用に修正を加えたもの) による英語ディベート大会
 予選は4試合行われ、2、3、4 試合目はパワーベアリングとなる。順位は、各チームの勝ち数と得点ポイントで決定し、ベスト8 チームによる決勝トーナメントとベスト 9～16 チームによるトーナメント2を実施する。
- ② バーラメンタリーディベートのスキル向上のためのワークショップ及びモデルディベート
- ③ 協賛企業による「今必要とされる人材」について等のプレゼンテーション

4 参加資格

日本高校生バーラメンタリーディベート連盟に公式認定された各都道府県大会に参加して出場権を獲得した日本に住所を有する高校に在学している学生(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)、または本連盟より特別に出場権を与えられた者 (同一都道府県内の出場希望校が1校であった場合など)。

1

2

同一校のチームの参加とする。ただし、英会話スクールなど高等学校以外の団体は例外とする。

5 参加費

1 チームにつき 20,000 円 (選手及び引率者の大会中の宿泊費および食費を含みます。尚、宿泊費と食費に關しまして、スポンサー様のご支援のもと半額を HPDU が負担しています。)

6 参加手続き

・**2月28日(金) 19:00までに**、下記の登録フォームからお申し込みください (期限厳守)。

登録フォーム <https://forms.gle/VY4SFnFz7tkvfJmK9>

上記のアドレスを貼り付けて、フォームを開いてください。

※登録フォームの中で本大会主催者およびメディアパートナーによる撮影と写真・動画開催許可について同意が求められます。同意していただくことが、本大会への参加条件の一つとなっていることをご了承ください。

・**3月7日(金) 15:00までに**、参加費20,000円を下記の口座に**学校名で**お振込みください。

※通帳に転写して確認しますので、正式な校名が長い場合は肝心の校名が入るようにご注意ください。

※欄名で振り込みをしないようにご注意ください。

振込先銀行：埼玉りそな銀行 伊奈支店

普通預金 口座番号：3916652

振込先口座名義：日本高校生バーラメンタリーディベート連盟

ニホンコウコウセイバールメンタリーディベートレニメイ

※以上の2点をもって出場登録となります。期日までに上記すべてが行われない場合、出場が認められない場合があります。

何かご質問等ありましたら hduofjapan@gmail.com へお問い合わせください。

7 大会の日程 (随時、協賛企業様によるプレゼンテーションが入ります。また、日程は大会の進行状況等により変更される可能性があります。)

第1日目 開会式・モデルディベート

15:00 受付、入場 (センター棟4 1 7にて)

15:30 開会式

16:20 プレゼンテーション① 公益財団法人日本英語検定協会

引率者ミーティング (センター棟4 1 6にて)

17:00 宿泊施設チェックイン、夕食 (センター棟2階カフェテリア「ふじ」にて)

19:00 モデルディベート (センター棟4 1 7にて)

プレゼンテーション② iae グローバルジャパン株式会社

プレゼンター：代表取締役 畠山直子

タイトル：「グローバル人材の発掘・価値の多様性の中で」

21:00 伝達後解散

第2日目 予選

決勝トーナメントでは、準備時間は 25 分とする。高価な道具を用意できたかどうかによって勝敗が左右されることがないように、論題発表以降は、ストップウォッチ、電子辞書専用機を除いた電子機器の使用は禁止する。

[スピーチの順番および時間]

試合の流れ 準備時間 第一日目20分、第二日目25分

1) PM (Prime Minister) 【5 分】

2) LO (Leader of Opposition) 【5 分】

3) MG (Member of Government) 【5 分】

4) MO (Member of Opposition) 【5 分】

5) Government Whip 【5 分】

6) Opposition Whip 【5 分】

7) Opposition Reply 【4 分】

8) Government Reply 【4 分】

***決勝のみ1)～6)の Speech を各7分とします。**

上記の 1)～6)の Speech の時間は各 5 分間、ただし**決勝ラウンドのみ各7 分間**、7) と 8) の Reply Speech は 4 分間。1)～6)の Speech の最初と最後の 30 秒間 (決勝のみ 1 分間) を除いた時間では、対戦相手のチームは Point of Information (質問、反論、コメント) を行うことができ、Point of Information がスピーカーから許可された場合、最長で 15 秒間話すことができる。

Reply Speech は、チームの 1 人目または、2 人目のスピーカーのいずれかが行い、Whip Speaker が Reply Speech を行うことはできない。

[スピーカーの役割]

- 各試合では、勝敗と各スピーカーの個人得点が決められる。
- Constructive Speech (Reply Speech 以外) では、右の表で示すとおり、75 を基準に上下 8 点の幅で各スピーチに得点が与えられ、Reply speech では、37.5 を基準に上下 4 点の幅で得点が与えられる。
- 各チーム最初の 2 人のスピーカーは、それぞれ肯定または否定側の議論を示し、また相手チームの議論に必要な反論をする。
- 3 人目の Whip speaker は、主に相手チームの議論への反論、そして反論された内容を受けての議論の立て直し、及び論点の整理を行う。より詳しいやり方については、HPDU のホームページの「参考資料」内「Whip を極める」を参考にして下さい。
- Reply Speech では、どうして自分たちのチームがその試合で勝利したのか、いくつかの争点に絞って説明を行う。

9 評価方法 [勝敗について]

・各試合では、勝敗と各スピーカーの個人得点が決められる。

・Constructive Speech (Reply Speech 以外) では、右の表で示すとおり、75 を基準に上下 8 点の幅で各スピーチに得点が与えられ、Reply speech では、37.5 を基準に上下 4 点の幅で得点が与えられる。

Constructive Speeches (out of 100)

Standard	Overall
Excellent	82-83
Good	79-81
Above average	76-78
Average	75
Below Average	72-74
Poor	69-71
Extremely Poor	67-68

Reply Speeches (out of 60)

Standard	Overall
Excellent	41 - 41.5
Good	39.5 - 40.5
Above Average	38 - 39
Average	37.5
Below Average	36 - 37
Poor	34.5 - 35.5
Extremely Poor	33.5 - 34

第3日目 決勝トーナメント、トーナメント 2 (ベスト 9～16 のチームによるトーナメント)

7:00 朝食 (カフェテリア「ふじ」にて)

9:00 集合、点呼

9:10 トーナメント出場チーム発表

9:30 準々決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分)

10:00 準々決勝 試合開始、ワークショップ

11:05 準決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分)

11:40 準決勝 試合開始

12:20 昼食 (カフェテリア「ふじ」にて)

13:30 決勝 対戦表・論題発表 (準備時間25分)

14:00 決勝 試合開始

15:30 閉会式 表彰

16:30 解散 (17時、会場完全撤収)

8 試合形式

[対戦組み合わせについて]

第 1 試合の対戦組み合わせは事前にランダムで決める。予選 2～4 試合目はパワーベアリングによって決める。予選 4 試合の勝敗数、そして勝敗数が同じチーム間ではスピーカーズ・スコアの総得点で、予選の順位を決定する。上位 8 チームが決勝トーナメントに進出し、準々決勝では予選の成績が良かった順に 1～8 の番号を振り、以下の通りで対戦を行う。トーナメント 2 の対戦組み合わせもこれと同様に行う。

準々決勝 A: team 1 対 team 8 準々決勝 B: team 2 対 team 7

準々決勝 C: team 3 対 team 6 準々決勝 D: team 4 対 team 5

[試合開始前の準備時間について]

論題は、予選では試合開始の 20 分前に発表される。論題発表後以降は、ディベーターはチームメイト以外の人の相談は禁止とする (顧問との相談も禁止)。

3

4

- ・予選ではジャッジが試合終了後に口頭で試合の勝敗とその理由を説明する。
- 10 その他の注意事項・
- ・生徒・引率者は大会期間中、学校または自宅から大会会場まで通える距離であっても、指定の宿泊施設に宿泊することが原則必要です。
 - ・当日は、顧問の方、もしくは保護者の方等、緊急時に対応していただける成人の方がご引率ください。引率をつけることは出場条件であり、引率の方の体調が良くない場合は、代わりの方をお願いいたします。
 - ・参加者の事情で食事や宿泊ができない事態が生じて、参加費の返却はできません。
 - ・本大会では、他のバーナメンタリーディベートの大会と同様、論題発表後の準備時間として試合中にチームのパートナー以外の者と口頭、メモ、その他の電子的な手段で相談することを禁じます。
 - ・ディベーターは準備時間内にチーム内の者以外と相談することはできません。
 - ・ディベーターは準備時間内として試合中に、電子辞書を除いた電子機器(例 インターネット接続機能を持ったタブレット・コンピューター等)を使用することはできません。
 - ・ディベーターはストップウォッチかタイマーを持参してください。試合中にストップウォッチとして携帯電話を使用することも禁じます。上記のように電子辞書の使用は可能ですが、タブレット型端末(iPadなど)の辞書アプリの利用は禁止します。
 - ・スピーチ中のチームメイトにメモ等でコミュニケーションをはかることを禁じます。
 - ・Point of Order (試合中に対戦相手のルール違反を指摘する行為)は禁止します。ルール違反があった場合、ジャッジが判断をするものとします。試合進行上支障をきたすルール違反があった場合、ジャッジが適切な処置をします。
 - ・Constructive Speech に対してPoint of Information (POI) を行う場合「Point」「Point of Information」といった表現で POI による発言の許可をスピーカーに求めてください。5分間の最初と最後の30秒間(決勝は7分間なので最初と最後の1分間)は POI 不可。POI により発言を許可された者は、15秒間だけ発言を許されます。Reply Speechに対してはPOI 不可。
 - ・相手チームの引率者と選手自身の承諾なしに、他校の生徒のスピーチを録音、撮影、録画することは禁止です。
 - ・HPDUの記録担当が撮影したものに關しては、後日、HPDUや大会の支援団体のホームページ、後援・共催・協力団体への報告書、HPDUや支援団体についての説明会や講演及び記事や書籍で使用する場合があります。こちらに同意していただくことが、本大会の参加条件になっています。
 - ・大会の様子は本大会のメディアパートナーである読売新聞社が取材し、同社の媒体で紹介される予定であり、写真撮影も行うことをご了承ください。読売新聞の記事に関してもHPDUや支援団体の報告書などで使用することがあります。こちらに同意していただくことも本大会の参加条件となっています。その他、主催者が取材を許可したメディアについても同様です。ただし、大会そのものではなく、特定の参加校や個人の取材については、対戦校の引率者と選手の同意を要します。
 - ・急な発熱などにより選手を変更せざるをえない場合は、開会式の開始までに連絡してください。代わりの選手が見つからず、2名以下での参加となってしまった場合は、個人賞の対象にはなりますが、シャドウチーム扱いとなり優勝トーナメントには出場できません。
- 11 各種教育奨励賞(実施状況により若干の変更の可能性あります。)
- 1) 文部科学大臣賞：優勝チームに授与。
 - 2) 日本英語検定協会賞：ベストスピーカー賞第1位受賞者、決勝トーナメント出場校に図書カードを贈
- 呈。
- 3) アルク賞：予選大会ベスト16以上のチームに書籍を贈呈。
- 4) 日本フィルハーモニー交響楽団賞：上位4チームにコンサートチケットと音楽CDを贈呈。
- 12 第14回日本高校生バーナメンタリーディベート連盟杯 (HPDU 杯) 実行委員および役員
- | | |
|------|--|
| 委員長 | 北原隆志 (渋谷教育学園渋谷中学高等学校教諭、HPDU 理事長、ESUJ 特別参与) |
| 実行委員 | 小林良裕 (豊島岡女子学園中学高等学校教諭、東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科博士課程在籍、HPDU 理事、ESUJ 特別参与) |
| | 浜野清澄 (さいたま市立浦和高等学校教諭、HPDU 理事) |
| | 天海揚介 (OBOG 代表、HPDU 理事) |
| | 西崎真広 (明星中学校・高等学校教諭、HPDU 理事) |
| | 須田智之 (筑波大学附属駒場中・高等学校教諭、HPDU 理事) |
| | 河野 周 (聖光学院中学校高等学校教諭、HPDU 理事、ESUJ 特別参与) |
| | Melvin Lai (東洋英和女学院 教諭) |
| | 飯屋まどか (立教女学院中学校・高等学校 教諭) |
| | 土屋紀子 (渋谷教育学園渋谷中学高等学校講師) |
- | | |
|---------|--|
| 名譽顧問 | 明石 康 (公益財団法人 国立京都国際会館理事長、元 ESUJ 副会長、元国連事務次長) |
| | 沼田貞昭 (ESUJ 名誉会長、元駐カナダ大使) |
| 監事 | 小野暢思 (合同会社 Tokyo Debate Academy 代表) |
| 顧問 | 加藤一郎 (千葉大学客員教授、元全農代表理事専務) |
| | 新庄一郎 (弁護士、元検察庁検事正) |
| | 酒井弘行 (公認会計士、元 KPMG ジャパン日本代表、元あずさ監査法人理事長) |
| | 下野雅承 (元日本 IBM 社長) |
| | 讃井暢子 (元一般社団法人 日本経済団体連合会常務理事) |
| | 油井直次 (元公益財団法人 日本英語検定協会会長) |
| | 河端政夫 (学校法人国際基督教大学監事、ブレインウッズ株式会社顧問) |
| 大会主顧問 | 岡田真樹子 (ESUJ 副会長、元山梨英和大学教授) |
| 大会特別顧問 | 綾部 功 (東海大学文学部英語文化コミュニケーション学科准教授、ESUJ 理事) |
| | 中川智皓 (大阪府立大学工学研究科機械工学分野准教授、PDA 代表) |
| 西日本代表 | 西山哲郎 (静岡聖光学院中学校・高等学校校長補佐) |
| 四国・九州代表 | 加藤 彰 (九州大学 非常勤講師/学術研究者) |
| チーフコーチ | 小野暢思 (合同会社 Tokyo Debate Academy 代表) |
- ・2014 年 ESUJ 大学対抗ディベート大会優勝、2016 年 ESUJ 社会人英語ディベート大会優勝、2017 年第 20 回記念 ESUJ 英語ディベート大会優勝など、国内外の各種バーナメンタリーディベート大会で優勝 35 回、ベストスピーカー賞 28 回・2015 年バーナメンタリーディベート世界大会(World Universities Debating Championship) ESL 部門 Quarter Finalist、EFL 部門 4th Best Speaker・各種セミナーの講師を務める。
- ※HPDUの大会は全てボランティアにより運営されています。



HPDU
OF JAPAN